

尾県郷土資料館

この資料館は、1878年の完成から1941年の廃校まで、数世代に渡る地元の子供たちが学んでいた、旧尾県学校を利用しています。校舎は、地域の集会所としても使用され、地域の中心地として重要な役割を果たしていました。

この建物の外観は、日本の伝統的な工法を保ちつつ、西洋建築を模した様式で建てられています。この様式は、藤村式と呼ばれ、西洋式が全国で大人気だった19世紀後半に流行しました。現在、山梨県には藤村式の建物が5つ残っています。1975年、この建物は山梨県有形文化財に指定されました。

1973年、建物の復元が始まり、1974年に現在のような資料館として再開しました。19世紀後半から20世紀前半の、都留の日常生活に関する様々な展示品があり、当時の生活様式を触って体験できます。元々、この建物は小学校であったため、ほとんどは子供の教育や日常生活に焦点を当てた資料です。1階には、この建物の建築、教材、雑誌に関する展示、それに明治時代(1868～1912)の教室の再現などがあります。2階には、教科書、その他の文具、使う季節ごとに分類された玩具などがあります。